

## カスカの物語にみる動物観と今日的意味

山口未花子(北海道大学)

筆者は2005年から、カナダ、ユーコン準州の先住民カスカの人々を対象にフィールド調査を行ってきた。彼女らは、豊かな北米先住民の口頭伝承の系譜に連なる人々であり、クマと結婚した娘、大洪水の物語など北米に広く分布する神話を共有している。また、カスカもその一員である北アサバスカンの神話は、生業の中心である狩猟との関係から動物との互恵性や初源的同一性を示すものが多く紹介されてきた(煎本1996)ことから明らかのように、動物に関する話が非常に多い。これまでの調査で記録されたカスカの物語を分類すると、たとえば動物や文化的英雄が、現在の世界の秩序がどのように作られたかを説明するような物語がある。また、動物や巨大な虫、スターマンといった人でない生物が人間と同一のものとして扱われるような物語もある。あるいは自分や近い家族などの体験したことで話者と同時代の物語がある。ここでは動物などは人間との同一性を持たないことが多いが、動物が人間に変化したり話しかけたりすることも稀ではない。しかしこうした物語の時間設定や登場人物が人間であるか否かというカテゴリーは時にあいまいであり、時系列が意味を持たないというカスカの世界観が浮かび上がる。

しかし近代国家の一員として生活するカスカの人々がこうした物語の世界を今も生きているのだろうか?本当に?例えばはじめてカスカの民族誌を書いたHonigmann(1954)は、すでにキリスト教や聖書の教えがカスカの物語に与える影響について述べている。1999年に出版されたKaska Narrativesに収録された物語のなかにもメディスン・マンが力を使う際に聖書を用いるという行がある。しかしこうした事例はキリスト教的世界観を受け入れたというより、アニミズム的世界観のなかで、キリストをメディスン・マンの一人として解釈していることを示すと考えられる。つまりカスカの人々は口頭伝承を再生産することで、社会の変化に対応してきたといえる。物語が再生産され、現在も意味を持ち続けていることについて、カスカの南隣に生活領域を持つダネザーの研究者Ridington et al.(2004)は「適応的、実践的な狩猟採集民として、彼らは新しい技術を使う物語をすばやく生み出す。・・・若い人々は・・・彼らの祖母やドリーマーたちが過去にそうしたように、彼らの物語のなかにこれからも生きていく。」と述べている。

2008年12月から2009年の3月にかけては、83歳の古老Aをして「こんなに天気が悪かった年はない」というほどの積雪と寒波に見舞われた年であった。家の中で悪天候をやり過ごしながら、同居する古老Aは「今年の秋、みんなリスの(越冬用に蓄えた)松かさを買った。だからリスのチーフが怒って雪を降らせたのだ」と語った。実際この秋、木材会社が植林用にパイン松の松かさを買って取ったため、多くの人がリスの巣穴を掘って松かさを得ていた。Aはこうした物語を語る時、決まって「若い人はよく知らないから」と付け加えた。

では若い世代にこうした物語は浸透しておらず、口頭伝承の伝統はついに途切れつつあるのだろうか?実はAも若い頃はこうした物語に懐疑的であったという。しかし何度も間違いを繰り返した挙句、「古い人々がとてもモノをよく知っている」ことに気がつき、その教えに従うことにしたのだという。また別の場面では古老Bが「

は以前狩猟したときにビーバーを撃った。一緒に行った私の夫は遠すぎるから止めたほうがいい」といったのに。

はビーバーを撃ったけど、歯が欠けただけでビーバーは逃げてしまった。一週間後、は事故で前歯を折った。」と語ると、若者が「そういえば、この前怪我をしたはカワウソを撃ち損じたといっていた。」ことを思い出した。このような、動物との関係をどのように結ぶべきかという具体的な方法を示した物語は、狩猟など動物との実際に関わりが多いカスカの生活の中で伝統的世界観を伝承する役割を果たしている。つまり古老は若者に教えるために物語を語るのであるが、それは必ずしもその場で効力を発揮する必要はなく、記憶に留まることが重要であるといえる。そしてそれはまさに物語にうってつけの役割なのである。

### 【参考文献】

Honigmann 1954 *The Kaska Indians*, Yale University Press.

煎本孝1996 『文化の自然誌』 東京大学出版会

Ridington R. et al. 2004 *Maintaining Dane-zaa Identity*, Circumpolar ethnicity and identity, Yamada and Irimoto (eds.), SES No.66, National Museum of Ethnology.

【カナダ、先住民、伝承、狩猟、近代化】